

令和5年度（2023年度）第2回理事会より

3月に令和5年度（2023年度）第2回理事会を実施しました。

各事業部の重点取組の一部を抜粋致します。

- 養成事業部：指導者養成事業（イントラ・D2）の同時開催に向けて取り組みます！
- 啓発・ユース育成部：社会課題の解決につながる活動内容の検討をします！
- 広報部：総合リーフレットの作成をします！

令和6年度（2024年度）一般会計収支予算書

科目	令和6年度（2024年度）予算	摘要
受取会費・受取助成金	520,000	年会費、助成金等
事業収益	1,046,000	講習会参加料・講師派遣
その他収益	1,000	利息等
経常収益計	1,567,000	
事業費	952,000	会場費、講師謝金、材料費等
管理費	615,000	事務局維持経費、郵送料、印刷費等
経常費用計	1,567,000	

キャンプ道について

表紙にある新コーナー「キャンプ道」は、北海道でキャンプ等の野外活動に情熱を注ぐ会員を紹介するコーナーです。

「道」という言葉には北海道の「道」を表すと共に、武士道や書道の様にある分野を極めていくことの「道」という意味を込めました。

キャンプ道に掲載を希望される方はありませんか？

自薦他薦問いませんので事務局までご連絡ください。

グッドキャンパーキャンペーンののぼり旗の貸出をします

日本キャンプ協会では、安全や環境、マナーに配慮しながらキャンプを楽しんでもらうためのキャンペーン活動を実施しております。この活動に賛同して頂ける方の拡大に向けて「のぼり旗」を日本キャンプ協会から頂きました。イベント等でご協力頂ける場合は、貸出できますので、事務局までご連絡ください。



北海道キャンプ協会事務局

〒005-0862

北海道札幌市南区滝野 106 番地

NPO法人ネイチャープログラムデザイン内

TEL&FAX 011-596-9170

メール hokkaido@camping.or.jp

URL https://hokkaidocamp.com/

Web ページ



Facebook



発行：北海道キャンプ協会広報部 編集：長江 集子



かわら版 北海道キャンプ協会

2024年
6月号

キャンプ道



「防災冬キャンプのパイオニアとして」

当団体は防災教育の研究開発を実践するNPOです。避難訓練の改善や理科の実験を基にした「サバイバルサイエンス教室」などと並び、冬季防災対策としてキャンプによる避難生活を想定した「防災冬キャンプ」を啓発することを活動の柱としています。2011年当時は北海道で冬にキャンプをする人はまだ少ない状況でした。やってみませんかと誘っても「寒いでしょ」「勝手にやって」などと敬遠されていました。私自身も経験はまったく無くゼロからのスタートでした。質素な冬キャンプの装備のために寒さで眠れぬ夜を何度も経験しました。そんな折、冬山登山者の装備や極寒の人々の暮らしを参考に試行錯誤の末、大型のスクリーンタープのなかに灯油ストーブを用いたカンガースタイルを確立しました。寝室としての小さなテントとリビングスペースにはチェアとテーブルを入れ、灯油ストーブでお湯を沸かして鍋料理を楽しみます。啓発活動として2014年3月に一般の方を対象とした体験イベントを江別市で初開催しました。2015年2月には札幌大通公園で冬キャンプのイベントを史上初開催するなど以後10年以上に及ぶ啓発体験会を実施してきました。ストーブを使用する冬キャンプを安全に楽しむための絶対ルールとして15分おきの換気と一酸化炭素チェッカーを2台使用することや消火器を常備することにしています。昨今では冬キャンプブームの到来となっているのはご存じかと思います。活動を続ける中で、キャンプを基礎から学びなおそうと北海道キャンプ協会主催のキャンプインストラクター講習会に参加したところ、「防災訓練＝キャンプだ」と意気投合する方との出会いから2023年から2年続けて避難所体験と野外冬キャンプ体験イベントを釧路市で一緒に運営しています。冬キャンプの黎明期を知るパイオニアとして、今後とも冬キャンプ未経験者に体験の機会を提供し、冬季災害時を想定した防災訓練になることと、冬キャンプを安全に楽しむ方法を後進に伝えていきたいです。

キャンプを楽しむことによって

「災害に負けず、だれもが笑って暮らせる世の中の実現を目指す」

NPO 防災教育研究センター赤鼻塾 代表：藤澤 誠（ポプ）



あそびばざーる運営協力

1月14日に実施された、「あそびばざーる（札幌市青少年山の家主催）」に、北海道キャンプ協会として運営協力させていただきました。「ゆきだるまの村」というコーナーを運営し、参加者の皆さんに見立てた雪だるまを作ってもらい、どんどん村を大きくしてもらおうコーナーです。

薪割りを体験してもらうため、油圧式薪割り機とキンドリングクラッカーを準備。割った薪をつかって暖を取ってもらおうと薪ストーブを、そしてごっこ遊びができるよう、テントに寝袋、テーブルにシェラカップも用意しました。

準備は万端、あとは参加者を待つばかりです。

はじめはおそろおそろコーナーに入ってきた子どもたちも、ボランティアのお兄さんお姉さんの作った見本を見て、目を輝かせて、雪だるまを作り始めました。あらかじめ用意しておいた、松ぼっくりやどんぐり、小枝などを飾り付けてオリジナルの雪だるまがどんどん増えていきます。あるお父さんは大きなかまくらを作ってくれました。何も無かった広場に通路やかまくら、村人が増え、ゆきだるまの村はどんどん大きくなっていきます。

薪割り体験では小さなお友達も頑張って薪割りをしていました。自分で割った薪をストーブで燃やしたのですが、火ばさみを使っておっかなびっくり薪を焚べていました。薪割りはやったことがあるけれど、火に焚べるのは初めてというお子さんも多く貴重な体験ができたようです。

子どもたちが夢中で雪遊びを満喫している間、お父さんお母さんたちには薪ストーブで暖を取ってもらいながら、沸かしたお湯で飲み物を提供しました。暖まりながら子どもたちの様子を見守れると大変好評でした。

「お昼を食べに行くよ～」と声をかけても、雪遊びが楽しすぎて遊び続けるお子さんたち。お子さんたちお腹空かないんですかね？とお声がけすると「いつもキャンプにくるとこんな感じなんですよ～」と笑顔のお母さん。「気がすむまで帰ってこないのだからこゝろで暖まれるのはありがたいですよ」と言ってくださいました。子どものやりたいことを満足するまでやらせてあげる姿勢に頭が下がる思いと、こゝろで思いきり身体いっぱい使って雪遊びを楽しめる子は幸せだなあと感じました。小さなことかもしれませんが、キャンプは子どもたちが育つ土台になっていると改めて感じる機会となりました。

竹内由美子（ハピ）



キャンプインストラクター キャンプディレクター2級

同時開催は北海道初！
開催予告

養成講習会同時開催

9/21 (土) ~ 9/23 (月・祝)

※申込と詳細につきましては、活動の2カ月前頃にホームページ等でお知らせ致します。

キャンプインストラクター：講習（講義・実技）

キャンプディレクター2級：講習（講義・実技）※事前レポート課題あり

キャンプディレクターって？

キャンプディレクターは、企画・運営に携わるキャンプの責任者を指し、キャンプディレクター資格は1級、2級の2段階で構成されています。講習会では、キャンプの「提供者」としての知識・技術を学び、その役割を担うために必要な視点を身につけることができます。

キャンプディレクター2級養成講習会では、キャンプの運営に携わるディレクターの基礎を学びます。キャンプを裏から支えるマネジメントディレクターとして必要な安全管理、キャンプマネジメント、環境教育の視点、そしてキャンプを進行するプログラムディレクターとして必要な企画、指導法、キャンプカウンセリング等がカリキュラムに含まれています。

キャンプディレクター2級受講要件

- キャンプインストラクター資格を保有していること
 - キャンプインストラクター資格取得後（認定日以降）、アウトドア活動参加経験2回以上と、1泊以上のキャンプ指導経験1回以上
- ※指導機会の無い方は事務局にご相談ください！

